

2014年4月
1061号

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

百葉

Manyo

友好の懸け橋

～誠意と真心は無限の友情と輝きわたる～

2014年4月22日、NPO 法人一冊の会、国連ウィメン日本協会さくら、日本タンザニア友好協会、尾崎行雄記念財団の共催で、ジリー・E・マレコ・駐日タンザニア連合共和国大使館公使参事官の送別会を、大使公邸にて開催しました。当初は一冊の会事務所で行う予定でしたが、大使閣下のあたたかいご配慮により公邸を使わせて頂くことができました。

はじめに、一冊の会最高顧問の佐藤啓太郎・アフリカ紛争難民問題担当大使(元駐タンザニア連合共和国全権大使)より、「マレコ公使参事官の10年にわたる両国交流促進の取り組みに敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。お蔭様でタンザニアと日本は大変強い絆で結ばれています。帰国後も御身体に気を付けて、より一層ご活躍されることを祈っております」との挨拶がありました。

次に、当日お身内に不幸があり、やむを得ず欠席となった一冊の会の加茂福史・筆頭副理事長・最高顧問丹野榮伍先生の代わりに、同じく副理事長の石田尊昭・尾崎行雄記念財団理事より、「政府間の交流だけでなく、私たちのような草の根の市民交流が、両国の真の相互理解と信頼関係の礎になると思います。更にその道筋を切り拓いて下さったマレコ公使参事官に心より感謝申し上げます」との挨拶がありました。



また、国連ウィメン日本協会さくら理事の左近充尚典・日本中小企業政治連盟幹事長より、「マレコ公使参事官の10年にわたる活動は地道で誠意に満ちたご配慮によって、両国の信頼関係はより強固なものになりました。これからはアフリカの世紀です。両国の関係はますます重要になると思います。特に日本の中小企業がタンザニアのお役に立てることも多くなると思いますので、これからも宜しくお願い致します」との挨拶がありました。

(ジリー・E・マレコ公使参事官の送別会に公務の間を駆けつけて下さったシジャオナ全権大使と記念撮影)

次に、大槻明子・一冊の会会長・国連ウィメン日本協会さくら会長が、加茂副理事長の意を汲んで友情の証として真心溢れる最大のおもてなしと、汗を流しあつた出席者を一人ずつマレコ公使参事官に紹介しました。前述以外の出席者は、一冊の会理事長・小山志賀子(元 UN Women 日本国内委員会理事)、参事・

箱根芳子(元一冊の会次長)、参事・岸田和江(元一冊の会監査)、参事・水上鞠子(ビアン会の会長)、理事・佐藤利江(佐藤大使夫人)、理事・平間幸江(国際書法芸術展審査員)、幹事・左近充昭子(株ミナト香料研究所役員)、幹事・三坂万理子(FAWA 事務局長)、国連ウィメン日本協会さくら理事・高木美智代衆議院議員(秘書代理出席)、被災地植樹活動(プロスパーポローニア)の中心者・畑山喜一、ヤング代表・小野正敏、一冊の会櫻華塾 50 グループを代表して富永桂子 G 長と平野葉子、以上17名。

その後、マレコ公使参事官に主催者から感謝の贈り物が手渡され、同時にマレコ公使参事官から返礼の贈り物を頂きました。

次に、全員で記念撮影を行おうとしたところ、なんとサロメ・T・シジャオナ・駐日タンザニア連合共和国特命全権大使がサプライズで登場され、この催しに対する感謝の気持ちを述べられました。



(佐藤啓太郎大使御夫妻とマレコ公使参事官との楽しい語らい)

との友情・思い出を胸に、タンザニアでも頑張っていきたいと思えます。本日は本当にありがとうございました。」

そして、マレコ公使参事官から改めて次のようなご挨拶を頂きました。「私のような一外交官のために、本日このように盛大な会を催して下さいに心より感謝を申し上げます。この10年間、皆様と心温まる交流ができたこと、日本の文化や生活を知る機会を持てたことを、本当に嬉しく光栄に思います。タンザニアに帰国した後も、皆様と育んだ友情は続きます。皆様との思い出や、日本人の勤勉さ・思いやりを、タンザニアの人々に広く伝えたいと思っています。また、チアロ元大使、ムタンゴ前大使に皆様から何かご連絡等がある際には、いつでも私にご連絡下さい。皆様

最後に、一冊の会の小山志賀子理事長から、「タンザニア公邸の庭に植樹したプロスパーポローニアの成長した写真を東北の被災した皆さんにお見せして、現在各市町村に復興をめざす記念樹として各地域に植樹が進められています。」との挨拶がありました。

その後は、全員発言の楽しい交流タイムとなり、タンザニアの紅茶、ケーキ、乾杯の代わりにウイスキー入りチョコレート、果物類、そして嬉しいことに大使閣下から差し入れられたナッツ等を頂きました。お土産は全員が尾崎行雄の「人生の本舞台は常に将来に在り」の箴言入りポストカードでした。会の終了後、大槻会長とマレコ公使参事官は抱き合い「今日は泣かないわ。近日中にまた共に協力しあえる日を楽しみにして——。」二人の間には数知れぬ幾多の思い出が走馬燈のようにめぐったことでしょう。3年間の東北震災支援に手を取りあって希望を捨てることなく被災者に心を寄せあったこと等々——。

一冊の会、国連ウィメン日本協会さくら、日本タンザニア友好協会、尾崎行雄記念財団は、今後もタンザニア連合共和国、そして駐日タンザニア連合共和国大使館と共に歩み、協力し、両国の交流促進と教育支援、被災地支援に取り組んで参ります。

タンザニア連合共和国大使館観光担当官の白井一真さんの通訳のお蔭で全てが成功に結び付き、心より感謝申し上げます。